

Inhibitorの発生例はなかったが、Cryoprecipitateの使用量は約1.5倍に増加した。

(考 察)

以上の成績から、かなりの好結果が得られたと考えられる。しかし、注射間隔の量も長い木曜日に出血頻度の多い症例もあり、Schimpfの述べた如く、12単位/Kg週3回注入で、関節変型の少ない年齢の若い時期より開始するのが望ましい。

血友病患者の家庭注射療法

九州大学小児科 宮 崎 澄 雄

病院から遠隔の土地に住み関節出血が頻発する血友病患者5例に自宅での抗血友病製剤注射療法を試みているので、その後の成績を報告する。

対象患者は表に示すごとく7才から16才までの血友病Aの患児で、いずれも当社での治療期間が2年以上になるものである。自宅注射に切替えてからの観察期間は6ヵ月から2年であり、手技者は両親のいずれかである。抗血友病製剤(1本100単位)の使用本数は、平均して月に1ないし2本であり、いずれも早期止血を目的とした。

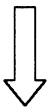
Home infusionを実施してから、5例中3例では休学日数が減少している。また本人の情緒的安定がみられ、通院による経済的負担も軽減している。法律的にも事故対策等にも問題点はあるが、血友病患児の家庭注射療法は前向きに考慮されるべきであろう。

表 血友病患者の自宅注射療法

患児	年齢	期間	手技者	総回数	総本数	目的	休学回数(月平均)	
S.A	8才	2年	母	22	35	早期止血	前5	後3
T.S	16	1年8ヵ月	父	14	22	〃	6	3
A.Y	11	1年0ヵ月	父	8	9	〃	2	2
T.T	13	1年5ヵ月	母	7	10	〃	1	1
N.K	7	6ヵ月	母	5	5	〃	2	1



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



病院から遠隔の土地に住み関節出血が頻発する血友病患者 5 例に自宅での抗血友病製剤注射療法を試みているので、その後の成績を報告する。